

グランドチャンピオン決まる

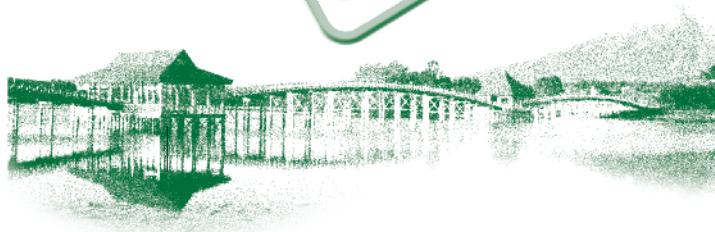
「鶴の舞橋桜まつり」（昨年まで津軽富士見湖桜まつり）の催しとして、平成 19 年から開催されてきた「鶴の舞橋全国カラオケ大会」の 10 回目の開催を記念するチャンピオン大会が 4 月 30 日（日）、富士見湖パークの野外ステージで開催されました。

大会には、第 1 回大会から、前日 29 日（土）に行われた第 10 回大会までの優勝者 10 人が参加し、演歌「鶴の舞橋」の歌声を競い合いました。また、同曲（唄：成世昌平さん）の作詞・作曲を手がけたもず唱平先生と聖川湧先生がゲスト審査員を務めました。

審査の結果、グランドチャンピオンには芦田ゆかりさん（平内町）、町議会議長賞に木村久さん（つがる市）が輝きました。



△優勝した芦田ゆかりさん（左）と歌手の成世昌平さん



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

願いを込めて小鳥の巣箱掛け

シジュウカラやムクドリなどが生息する津軽富士見湖畔の「野鳥の森」で 5 月 1 日（月）、水元中央小学校（片山好弘校長）の 4 年生 9 人が小鳥の巣箱がけを体験しました。

巣箱がけは児童に愛鳥の精神と自然を大切にすることを養ってもらおうと、昭和 57 年から続けられている同校の伝統行事。片山校長が「小鳥がたくさん入るように心を込めて巣箱をかけてください」と話した後、児童たちは巣箱がけの講師を務める笹森松三さんから巣箱のかけ方を教わり、はしごを使って木に取り付けていました。

伊藤佑真君は「たくさん鳥が巣箱に入り、卵を産んでひなが育ってほしい」と話していました。



△小鳥がたくさん入るように願いを込めて巣箱をかける児童

ワイナリー建設へ向けて地鎮祭

地元産のブドウを使ったワインの醸造や販売を目指す「WANO winery」（八木橋英貴社長）が5月15日（月）、ワイナリー建設の地鎮祭を当町鶴田小泉にある開業予定地で行い、出席した関係者らが建設工事の安全を祈願しました。

ワイナリーは木造平屋の約200㎡。ブドウを搾る機械類やワインを仕込む1000リットルのタンク6本のほか、試飲スペースなどを備える予定で、8月下旬の完成を目指しています。稼働後は町内産のナイヤガラ、キャンベル、スチューベンを使った赤2種、白1種のワインを醸造する計画です。

八木橋社長は「皆さんに親しんでもらえるワインを造りたいです」と抱負を語っていました。



△ワイナリー建設工事の安全を祈願する八木橋社長



△一つ一つ丁寧にペゴニアを植えていく園児たち

心を込めて園児が花を植える

富士見湖パークを訪れる観光客に花景色を楽しんでもらおうと、町の園児や児童ら約180人が5月19日（金）、赤や白、ピンクのペゴニア約1万本をパークの花壇に植えました。

開会式では、水元保育園の園児たちが「パークを訪れる皆さんが楽しい気持ち、優しい気持ちになるよう花を植えます」と誓いの言葉を述べました。参加した子どもたちは花の葉っぱに土がかからないように、「きれいに咲いてね」と心を込めて丁寧に植えていました。

NOGIこども園の須藤莉瑚ちゃんは「パークに来る人に『上手に植えてるな』『きれいな花だな』と思ってもらいたいです」と話していました。

高校再編案について懇談会開催

県教育委員会では、県立高校再編の第1期計画案について、住民の意見を聞く地区懇談会を5月22日（月）、町国際交流会館で開催し、鶴田高校PTA関係者やOBをはじめ、相川町長や松山議長のほか、町民ら約100人が参加しました。

懇談会では、県教委が町内唯一の高校である鶴田高校を平成33年度に、板柳、金木、五所川原工業高校の3高校とともに統合し、五所川原工業高校の校舎を使用する計画案について説明。参加者からは「地域の意見が反映されていない」「もう一度計画の再考をお願いしたい」「経済的な理由で近くの高校に入らなければいけない家庭の子の進路が絶たれる」といった意見が出されました。



△県教育委員会の説明に耳を傾ける参加者